



1/震災前後の水族館の生き物を感情豊かに表現 2/スーパーボランティアのおじいちゃんと孫のワンシーン 3/カメキチの性別がメスと判明 4/硬い役どころもコミカルな動きで会場の笑いを誘いました 5/長い期間にわたって切磋琢磨しながら一緒に作り上げてきた仲間たちと記念撮影

3年振りのステージ おらほーる劇場

おらほーる劇場第14回公演が、11月19日、20日の2日間開催され、約300人が演劇を楽しみました。

おらほーる劇場は地元の問題を取り入れ、演出・舞台から衣装まで参加者で作っている市民劇で、8月から練習を重ね3年振りの公演に力を注ぎました。

今回の公演は「震災を忘れない」をテーマに発信し続けている水族館シリーズの第3弾。コミカルな動きや震災から前向きに進む展開に、会場は笑い声と笑顔に包まれました。

初めておらほーる劇場に参加した、中平真央さんは「入団を決意したあと、コロナで中止を余儀なくされてきましたが、やっと舞台に立つことができました。仲間と作り上げてきたステージは本当に楽しかったです。見に来てくれた人が、おらほーるをきっかけに舞台を好きになり、同じ世界に入りたいと思います」と語りました。



風情を感じる昔遊びのおもちゃ

子どもたちによるこんでほしいと、天神堂の村由明朗さんから、手作りの万華鏡やかざぐるまを長年にわたり提供いただいています。かざぐるまは、少しの風でも回るように工夫。柄が木製で手に馴染みやすく作られ、製作者のやさしさを感じます。元気の泉内の、子育て世代包括支援センターでお配りしていますので、気軽に申し出ください。

久慈百景

あなたの写真や動画で久慈をPRしませんか？

Instagramで久慈の風景や魅力を撮影した写真や動画に、ハッシュタグ「#久慈百景」をつけて投稿するだけ！

現在、5,200件を超える投稿がされています。皆さんの素敵な写真や動画で、一緒に久慈を全国、そして世界にPRしませんか。

